



# 第 1328 回例会報告

平成25年8月 22 日(木) 晴

## 会長挨拶

会長 平山隆勇

## 会員増強拡大月間

8月は会員増強拡大月間です。ここ3年間の『ロータリーの友』8月号をみると当然のことではありませんが、毎回会員増強拡大月間の特集が組まれています。特に2012年8月の特集は参考になる充実した内容です。会員増強に成功したクラブの代表者が出席し、「会員増強成功の秘けつ」というテーマでの座談会や、「こうして会員増強に成功しました」というタイトルで、体験例が15クラブより投稿されています。恥ずかしいことに私は今回までこれらの特集を余りしっかり読んでいませんでした。ほとんど読んで無かったというのが正直なところです。改めて読んでみて、会員増強に成功したクラブはやはり意気込みが違うなど痛切に感じました。

第29期の会長指針において、若い世代に入会にさせていただくことを会員増強の目標とさせて頂いておりますが、『ロータリーの友』の特集に於いても、若い会員に関するものが幾つか記載されています。

創立 50 周年を迎えたあるクラブは、40 代の若い会員を 6 人迎えることができたのですが、10 年前の 40 周年時の会員は 10 名しか残っていないとすることで、平均年齢を下げたこと、新陳代謝の活発なことを誇らしげ書いてあります。50 周年ともなれば、創立メンバーはほとんど居なくなっているでしょうし、10年以上在籍する会員も、少数派になっている可能性があることを改めて感じました。私達諏訪湖ロータリークラブの 20 年後の姿でもある

のです。20年後までクラブをつなげるには、会員増強という大きな努力を必要とします。

又、別のクラブからの記事に次の様な言葉もありました。「今の若い人もしっかりしていて、自分を鍛えて人間形成をしたいと思っている人は結構いる。その場を与えてあげるのがロータリーの一つの使命ではないか」というものでした。そんな素晴らしい気概を持つ若者についての情報を何とか欲しいものだとつくづく思いますが、そのためには若い世代の力を利用することが最も効果的だと考えます。2010年の『ロータリーの友』の特集に、「若い世代の特徴は、単に年齢層が若いだけでな

### ■出席報告

会員数	36名
出席対象	33名
出席者数	26名
出席率	76.5%
前回修正	94.1%

### ■ニコニコBOX

21名	33,000円
累計	183,000円
目標額	130万円
達成率	14.1%

### ■今週のことば

おかげさまで今月10日セブに向けて鍵盤ハーモニカ200台を発送しました。

これからも収集よろしく願います。

溝口幸二

7/25諏訪湖カントリー4番ショートホールにてホールインワンを達成しました。2度目の快挙であり大変うれしいのですが、時節柄記念コンペはしません。保険金はお世話になっている諏訪湖カントリークラブに寄付することとしました。

今後とも健康で楽しいゴルフができればうれしいと思います

大澤邦彦

### ■次回のプログラム

9月5日

青少年奉仕担当例会

く、新しい情報(手垢の付いていない人材リスト)をもっていることだ」という一節がみられました。当クラブでも、今年度、若い世代に会員増強特別委員会のメンバーになって頂いています。新しい情報・ネットワークを活用した増強活動を期待したいところです。会員増強と出席率向上はクラブを元気にする特効薬です。ただ歴史や伝統しか誇るところが無い様なクラブではなく、新しい会員がまた次の新しい会員を入会させる様な、活気あるクラブを目指そうではありませんか。

### ◇幹事報告◇

#### 【連絡事項】

1. 諏訪大社RC主管で行われるRYLAへの出席要請がきています。後日FAXを送りますので参加をお願いします。
2. 8月31日、堺フェニックスクラブから贈られるボートの贈呈式が湖上で行われます、後日FAXで参加確認を行いますのでよろしく「お願いします」

#### 【受領文書】

米山奨学生便り、岡谷エコーRC、岡谷RC、諏訪RCからウィークリーが届きました

### ◇委員会報告◇

#### 【社会奉仕委員会】

9月の諏訪湖清掃は「ガールスカウトとの協同作業」になります。終了後は、宮坂会員の所有する遊覧船でガールスカウトのみなさんと湖上より諏訪湖の様子を見学します。次週より出欠をとりますのでよろしく。

## 1328回例会

会長・幹事

### 「第28期決算報告」

本日は第28期の決算報告が小松孝弘会計より行われました。

報告に先立ち、蒲地直前会長より「28期自分が会長でしたので、会長が監査するのはよくないと思ひ、息子の公認会計士に会計監査をお願いし

た」と報告がありました。

詳細な報告が行われ、全会一致で会計報告は承認されました。

引き続き職業奉仕委員会委員会高山委員長から「会員増強」について説明があり、会員増強特別委員会望月副委員長より次のようにお話がありました。

#### 会員増強について

仕事の都合で欠席される太田委員長の代理の望月です。

みなさんもご承知のように若いメンバーの入会が一番望ましいと思います。今年の会員増強特別委員会メンバーもこれを果たすために若いメンバーで構成されています。でもみなさんのお力も是非お貸してください。

今一度、仕事関係でいえば会社、取引先、組合など。地域でいえばご近所の方。各種所属団体でいえば商工会議所、趣味の会やJCなどかつて所属していた団体などの方を思い起こしてください。若い方といえばみなさんのご子息等もその適齢期ではないでしょうか？またみなさんの携帯電話の住所録を見ていただき一人ひとりチェックしてみてください。一名くらいは候補の方がいらっしゃると思います。

やはり会員増強の特効薬は”熱意”です！

皆様の熱い熱意のこもったご支援を当委員会にお願いいたします

## 米山奨学地区セミナー レポート

国際奉仕委員会 溝口幸二委員

標記セミナーが8月24日(土)にホテル岡谷で開催されました。宮坂宥洪ガバナーを始め地区理事者の挨拶のあと、ロータリー米山記念奨学会アドバイザー坂下博康氏によって「米山記念奨学事業の意義と成果」と題する講演が行われました。

講演内容の要点を以下に列記します。

1. 米山記念奨学会は米山梅吉氏が始めた奨学会では無く、1949年(昭和24年)日本が国際ロ

ロータリーに復帰した3年後、東京RCが「米山基金」の試案を発表、1957年(昭32)全国組織「ロータリー米山奨学委員会」が発足した。その後1967年(昭42)財団法人、2012年から公益法人ロータリー米山記念奨学会となる。(米山奨学会ではありません)

2. 米山奨学事業は世界に誇る34地区合同国際奉仕事業であり、本奨学会は民間最大の奨学財団である。現在まで121カ国、約17500人の留学生を支援してきた。他財団にはない世話クラブ・カウンセラー制度が特徴で、救済支援型奨学金で始まったが2002年より知的貢献型奨学金として、優秀で、将来世界平和に貢献できるような学生に授与している。
  3. 世界に類を見ないこの奨学事業は、国際ロータリー歴代会長からも賞賛されている。
  4. 元米山奨学生は米山学友として、日本を始め多くの国で活躍しており、国際親善にもおおいに寄与している。
  5. 東日本大震災に、台湾、韓国、中国、日本在住の学友から 740 万円余の義捐金が寄せられた。
  6. 2001-02年度の寄付金は約17億円あったが、年々減少して2011-12年度は約13億円となり、奨学生の人数も999人から825人にまで減少した。ちなみに今年度は700人となっている。
- 終わりに

青年よ強くなれ

真に強いとは、一道を生き抜くことである

念願は人格を決定す

継続は力なり

真の強さは正しい念願を貫くにある

平凡でもいい 一筋道をゆけ

(住岡夜晃 賛嘆の詩)

ロータリアンは永遠の青年です。未来ある青年のために宜しくお願い致します。

米山奨学事業は、貴方のロータリークラブの国際奉仕事業なのです。